備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦

岡山理科大学　亀田　修一

『史跡寺町廃寺跡-推定三谷寺跡第1～8次発掘調査総括報告書-』刊行記念シンポジウム
「史跡寺町廃寺跡（推定三谷寺）を語る」
令和4年11月19日（土）10時～15時
みよしまちづくりセンター

備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦

岡山理科大学
亀田修一

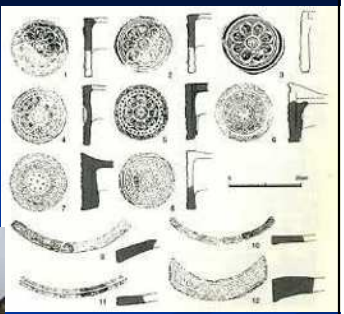
1. はじめに

2. 備中栢寺廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦
3. 備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の比較
4. 備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の同笵関係が語るもの
5. おわりに

2. 備中栢寺廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦

［備中栢寺（かやでら）廃寺］
- 岡山県総社市
- 備中国賀夜郡服部郷
- 7世紀中頃～8世紀

栢寺廃寺（南より）



（湊哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版）（3は寺町廃寺）

備中栢寺廃寺のおもな瓦

素弁八葉蓮華文軒丸瓦：7世紀中頃

平城宮式複弁八葉蓮華文軒丸瓦：8世紀前半

複弁八葉蓮華文軒丸瓦：7世紀後半

平城宮式均整唐草文軒平瓦：8世紀前半

1類a

1類b

1類b

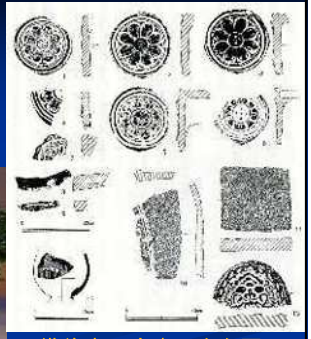
aは、中房下部の蓮子に小さな傷が見えるが、bは、そのキズが右横にあり、少し大きくなっている。また、外区に圏線が1本増えている。これらのことからaがbより古い。またどちらも表面は白く、断面は黒い。黒あんこ状。

3．備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の比較

［備後寺町廃寺］

・広島県三次市向江田
・備後国三谿郡三谿郷
・7世紀後半～9世紀

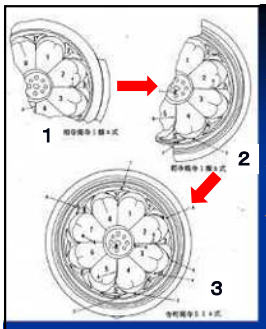
（広島県立歴史民俗資料館1998『ひろしまの古代寺院　寺町廃寺と水切り瓦』）



備後寺町廃寺の主な瓦

（湊哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版）

[寺町廃寺創建瓦]栢寺廃寺1類bと同笵で、笵キズが大きくなっている。つまり、寺町廃寺創建瓦は栢寺廃寺瓦より新しい。ただ、寺町廃寺創建瓦は、瓦当裏面上部に丸瓦をそのまま接合しており、製作技法は異なる。そして、瓦当下部に小さな突起(水切り部)が作られている。



岡本寛久1992の同笵認定

栢寺廃寺1から栢寺廃寺2へ外区に圏線を追加し、変化。この笵型が寺町廃寺に移動し、寺町廃寺3が造られた。

その時に、2を造った工人が笵型をもって移動して寺町廃寺で3の瓦を造ったのか、それとも笵型だけ移動したのか。

[岡本案]工人+笵型

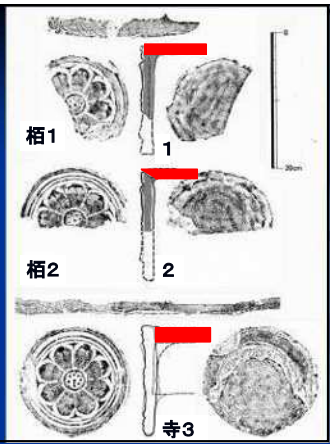
[妹尾案]笵型のみ(技法が異なる)

＊亀田は、笵型のみ(妹尾案OK)

栢寺廃寺2は丸瓦先端部内側を斜めに切って接合している。

栢寺廃寺1は瓦当面の上部に無加工の丸瓦をかぶせているが、栢寺廃寺2は丸瓦先端部内側を斜めに切り接合、そして寺町廃寺3は瓦当裏面上部に無加工の丸瓦をそのまま貼り付けている。つまり、栢寺廃寺2と寺町廃寺3は製作技法が異なる。

備後寺町廃寺の創建瓦は、備中栢寺廃寺から笵型をもらって(または、借りて)きて、別の工人たちがこの三次の地で生産した。この工人はどこの人？



栢寺廃寺(1、2)と寺町廃寺(3)の瓦の製作技法比較

このように1、2と3の丸瓦接合技法は異なり、寺町廃寺の創建瓦は、栢寺廃寺から笵型をもらって(または、借りて:以下、「借りて」で説明)、別の工人たちがこの三次の地で生産した。

4. 備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の同笵関係が語るもの

(1)寺町廃寺創建瓦はだれが造った?

・備後では、寺町廃寺に確実に先行する瓦の詳細は不明。安芸まで広げると、三原市毘沙門山下遺跡出土軒丸瓦が7世紀前半まで遡り、周辺で最も古い。しかし、畿内系の船橋廃寺式で、文様は異なり、丸瓦接合技法も無加工の丸瓦を瓦当上部に被せるもので寺町廃寺創建瓦とは異なる。つまり、備後や安芸には寺町廃寺創建時の瓦造りに指導者として関与した人物はいないようである。

・備中では、秦原廃寺と末ノ奥窯跡群の瓦が7世紀前半まで遡る。ただ、秦原瓦は丸瓦先端部に接合用の細いキズをつけており、寺町廃寺創建瓦とは異なる。末ノ奥瓦は丸瓦先端部内面を斜めに1回ケズり、栢寺1類bと類似するが、寺町廃寺創建瓦とは異なる。

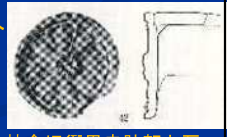
・備後・安芸・備中は、寺町廃寺創建瓦との関係は不明。

そこで

a:百済の禅師弘済(ぐさい)自らが多少瓦造りの知識があり、笵型は備中栢寺廃寺から借りてきたが、実際の瓦造りは自らが周辺の人々を指導しながら製作した可能性

b:弘済とともに渡って来た百済の人々の中に多少瓦造りの知識を持つ人物がいて、笵型は栢寺から借りたが、彼らが造った。→百済では寺町廃寺創建瓦と同様の技法の瓦は、(文様は異なるが)扶余王宮近くの旧衙里寺跡でみられる。

c:畿内から寺造り、瓦造りなどの工人を呼んでくる。「金丹など」購入に都に行ったときに依頼?。法起寺式伽藍配置は畿内系であり、少なくとも畿内の技術や情報は入っている。



扶余旧衙里寺跡軒丸瓦
(6世紀末~7世紀初)

（国立扶余文化財研究所2010『扶余軍守里寺跡Ⅰ』）

塼立て基壇は百済系？

備後寺町廃寺金堂（7世紀後半）　扶余軍守里寺跡塔跡（6世紀）

寺町廃寺と扶余軍守里寺の塼立て基壇：百済系

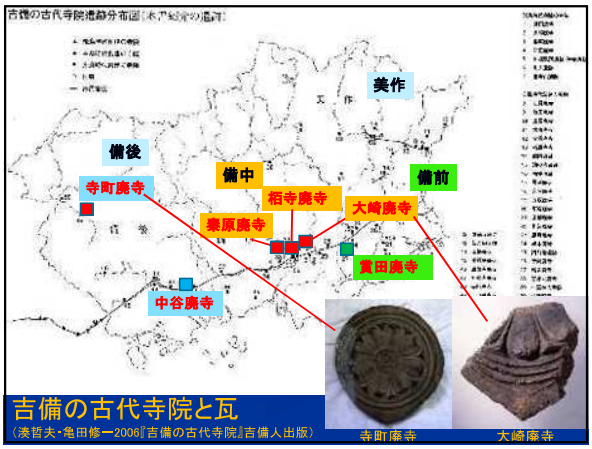
現時点で寺町廃寺の塼立て基壇より古い例は日本列島内にはない。韓国でもこのような塼立て基壇は軍守里寺跡だけで確認されている。

（2）なぜ、創建瓦の笵型は備中栢寺廃寺からなのか。

＊伽藍配置・基壇造り・瓦造りは、百済や畿内からの工人の関与が考えられるのに、なぜ、笵型は備中栢寺廃寺から？

a. 備中と備後で古くからの関係があった？。これも含めて栢寺廃寺造営者も白村江の戦いに参戦し、三谷寺造営者とともに戦い、栢寺廃寺造営者が先に帰国し、寺院造営を始め、一つのお堂などができた段階に、あとから戻ってきた三谷寺造営者に笵型貸与などの援助を行った可能性

b. 栢寺廃寺造営者が「賀夜郡」の有力者であったことは間違いなく、この周辺で5世紀代以降の朝鮮半島系考古資料が多く確認されていることから、造営者が5世紀代以降の加耶系渡来人の子孫、またはそのような渡来系の人々が周辺に多くいた。三次地域も近年の研究により、古墳時代から朝鮮半島との関わりが深いことがわかってきており、備中の豪族や渡来系の僧・人々との関わりが深かった？



吉備の古代寺院と瓦

（湊哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版）

5．おわりに—寺町廃寺・栢寺廃寺の瓦で何を語ることができるか

＊備中賀夜郡と備後三谿郡の豪族たちや渡来系の人々が相互に関係？

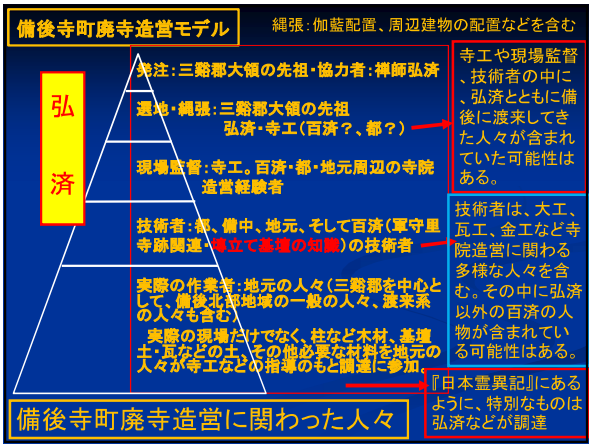
＊栢寺廃寺の僧などと三谷寺の僧弘済が関わる？

＊寺院造営の技術的な面で、僧・渡来人ネットワーク？

＊仏教・寺院造営技術の伝播に中央→地方だけでなく、地方→地方もある。また、朝鮮半島→日本列島の地方も。いろいろなレベル、多様なルートで造営技術や造瓦技術などが伝播、そして展開→寺町廃寺研究はこのような多様性研究に役立つ

付：栢寺廃寺の瓦の断面中央部に黒い色の部分があり、約3km離れた末ノ奥窯跡群で生産された可能性が明らかになった。

総社市末ノ奥窯跡群の素弁八葉蓮華文軒丸瓦：断面の中が黒色



［おもな参考文献］

・岡本寛久1992「『水切り瓦』の起源と伝播の意義」近藤義郎編『吉備の考古学的研究』下、山陽新聞社
・亀田修一2006『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館
・国立扶余博物館2008『百済王興寺』
・国立扶余博物館2009『百済伽藍に込められた仏教文化』
・妹尾周三1999「広島の古瓦」脇坂光彦・小都隆編『考古学から見た地域文化』渓水社
・奈良文化財研究所2002『飛鳥・藤原京展』
・広島県立歴史民俗資料館1998『ひろしまの古代寺院　寺町廃寺と水切り瓦』
・松下正司1969「備後北部の古瓦」『考古学雑誌』55-1
・松下正司1993「水切瓦再考」『考古論集』潮見浩先生退官記念事業会
・湊哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版
・三次市教育委員会2022『史跡寺町廃寺跡』
・村田晋2018「広島県」中国四国前方後円墳研究会第21回研究集会（岡山大会）実行委員会編『中期古墳研究の現状と課題Ⅱ～古墳時代中期の交流～』